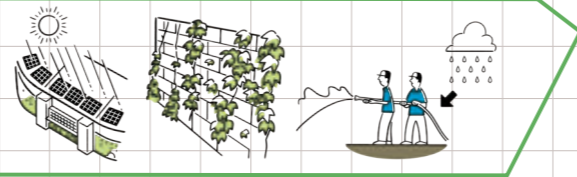




## KOSHIEN "eco" Challengeとは

阪神甲子園球場が取り組んでいる環境保全プロジェクト。3つのテーマを設定し、球場を運営する上でかかる環境への負担を減らすことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

- ① 廃棄物発生<sup>はいきぶつ</sup>の抑止<sup>よくし</sup>とリサイクルの推進
- ② CO<sub>2</sub>排出量の削減
- ③ 再生可能エネルギー等の活用



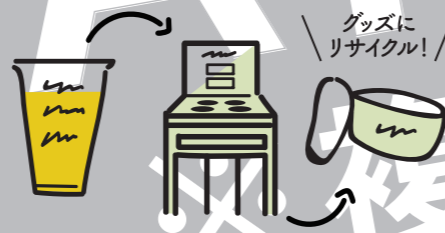
## ① 廃棄物発生<sup>はいきぶつ</sup>の抑止<sup>よくし</sup>とリサイクルの推進

### プラスチックカップの回収・リサイクル

協力: 帝人フロンティア株式会社、株式会社シモジマ

阪神甲子園球場内で使用されたポリエステル製プラスチックカップの、分別回収への協力を呼びかけています。回収したカップは、工場ではリサイクル原料へと加工。球場のイベントで配布するグッズなどにリサイクルされています。

さらに、球場で回収されたプラスチックカップ10%、ペットボトル20%、ポリエチレンのリサイクル原料35%を配合したリサイクルごみ袋<sup>ぶくろ</sup>を工場<sup>くわじやう</sup>で製造し、2022(令和4)年から球場内で使用しています。リサイクル原料の割合が高いため、通常のごみ袋に比べてCO<sub>2</sub>排出量を約15%も削減することができます。



### 阪神甲子園球場における循環型リサイクルの流れ



## ペットボトルの回収・リサイクル

協力: アサヒ飲料株式会社、帝人フロンティア株式会社

阪神甲子園球場内で使用済みペットボトルの分別回収への協力を呼びかけています。使用済みペットボトルをリサイクル原料<sup>もと</sup>に戻し、リサイクルポリエステル繊維<sup>せんい</sup>にする「ボトルto繊維」という取り組みを推進。球場内でのリサイクル素材の活用を拡大していきます。

さらに将来的には、ペットボトルからできたリサイクル原料を使って、再びペットボトルを製造する「ボトルtoボトル」の球場での実現を目指します。



### リサイクル素材の活用例

リサイクルポリエステル繊維は、2022(令和4)年から球場スタッフのユニフォームに採用されています。



### Mini Column

#### キャップとラベルの分別が必要?

ペットボトル本体とキャップ・ラベルは違う素材<sup>ちが</sup>でできていることが多いため、それらが混じっていたり、飲み残しやごみなどの異物があつたりすると、きれいなリサイクル原料に生まれ変わることができません。有効なリサイクルのために、丁寧な分別は大切なことなのです。

## プラスチック製容器をバイオマス素材へ変更

協力: 株式会社シモジマ、帝人フロンティア株式会社

阪神甲子園球場内の売店で使用しているプラスチック製の容器などを、紙をはじめとするバイオマス製品に変更し、プラスチックの使用量を削減します。2020(令和2)年10月から甲子園やきそば、2021(令和3)年から甲子園カレーの容器をバイオマス製品に変更しており、将来的には全ての販売商品<sup>はんばい</sup>の容器などを変更します。

### 甲子園カレーの容器「エコバンパー」

農薬・化学肥料が使われていない竹を原料とした「エコバンパー」という素材を使用しています。竹は伐採後も次々と新しい芽が出てくるため、循環型資源といわれています。

